

## 教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー) 博士前期課程・修士課程

### 【大学院 カリキュラムポリシー】

東京農業大学大学院は、本学の教育の理念「実学主義」に基づく農学あるいは生物産業学の教育を根幹として、実践的かつ高度な専門知識・技術を修得し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。

|                         |   |
|-------------------------|---|
| <b>博士前期課程・<br/>修士課程</b> | <p>(1) 専攻において共通して理解すべき学識を得るための特論科目などにより基盤を築き、選択科目により専門内容をさらに深化させる。</p> <p>(2) 研究者、教育者あるいは技術者として必要なプレゼンテーション能力あるいはコミュニケーション能力を向上させ、実験科目により実験技術を修得し、演習科目により知識を深めるとともに発表能力や問題解決能力を増強する。</p> <p>(3) 修士論文の作成においては、指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などを実践して専門性を高め、論文の執筆、発表等を体得することにより、高度な研究者・専門家としての総合力を確立する。</p> |
|-------------------------|---|

### 【研究科 カリキュラムポリシー】

|                    |   |
|--------------------|---|
| <b>農学研究科</b>       | <p>農学研究科博士前期課程・修士課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、農学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 各専攻において共通して理解すべき学識を得るための特論科目を配当する。</p> <p>(2) 専門的知識や理解をさらに深化させるための選択科目を配当する。</p> <p>(3) 研究者、教育者あるいは技術者として必要なプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を向上させるための選択科目を配当する。</p> <p>(4) 実験技術の修得のための実験科目と、発表能力や問題解決能力を増強するための演習科目を配当する。</p> <p>(5) 指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う特別実験・実習・演習科目を必修科目として配当する。</p>  |
| <b>応用生物科学研究科</b>   | <p>応用生物科学研究科博士前期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、応用生物学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」に、研究者・技術者等として必要な知的管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目」に、研究者・技術者等として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を身につける科目、生命倫理・研究倫理に対する理解力を高める科目および研究の遂行に求められる専攻基礎科目を配当する。</p> <p>(3) 「専攻科目・特論科目」に、研究者や技術者等として必要な専門的知識・研究能力を修得させるため、講義または演習形式による専攻専門科目を配当する。</p> <p>(4) 「研究科目」に、指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目、実験科目を必修科目として配当する。</p> |
| <b>生命科学研究科</b>     | <p>生命科学研究科博士前期課程・修士課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、生命科学にかかわる研究者など専門職者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」に、研究者・技術者等として必要な知的管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目」に、研究者など専門職者として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を身につける科目、生命倫理・研究倫理に対する理解力を高める科目及び研究の遂行に求められる専攻基礎科目を配当する。</p> <p>(3) 「専攻科目・特論科目」に、研究者など専門職者として必要な専門的知識・研究能力を修得させるため、講義または演習形式による専攻専門科目を配当する。</p> <p>(4) 「研究科目」に、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目、実験科目を必修科目として配当する。</p>               |
| <b>地域環境科学研究科</b>   | <p>地域環境科学研究科博士前期課程・修士課程は、地域問題、環境問題の具体的な解決に資する知識・技術・解決力を習得し、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」に、専門技術者として必要な知的管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目」に、専門技術者として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を身につける科目、研究倫理に対する理解力を高める科目及び研究の追考に求められる科目を配当する。</p> <p>(3) 「専攻科目・特論科目」に、専門技術者として必要な専門的知識を修得させるため、講義または演習形式による科目を配当する。</p> <p>(4) 「研究科目」に、指導教員による密接な指導の下に、問題発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献検索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目、実験科目を必修科目として配当する。</p>  |
| <b>国際食料農業科学研究科</b> | <p>国際食料農業科学研究科博士前期課程・修士課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、国際食料農業科学に関わる専門家としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」として、知的財産管理、研究倫理等に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目」として、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力及び語学力を高める科目、各専攻で研究を推進するうえで基礎となる科目を配当する。</p> <p>(3) 「専攻科目・特論科目」として、専門的知識、分析力を習得させるための講義または演習形式により、適切な特論科目を配当する。</p> <p>(4) 「研究科目」として、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目、実験科目を必修科目として配当する。</p>   |
| <b>生物産業学研究科</b>    | <p>生物産業学研究科博士前期課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、学部において学んだ生物産業学の根幹となる生産、加工、流通・ビジネスを各専攻においてより深く探求する実践的な専門科目の体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> <p>(1) 各専攻において共通して理解すべき学識を得るための特論科目を配当する。</p> <p>(2) 専門的知識や理解を深化させるための選択科目を配当する。</p> <p>(3) 研究者、教育者あるいは専門家として必要なプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を向上させるための選択科目を配当する。</p> <p>(4) 実験技術の修得のための実験科目と、発表能力や問題解決能力を増強するための演習科目を配当する。</p> <p>(5) 指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などを実践して修士論文の執筆と発表を行う科目として特別総合実験・演習科目を配当する。</p>                              |

# 教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)博士前期課程・修士課程

## 【専攻 カリキュラムポリシー】

|                        |   |
|------------------------|---|
| <p><b>農学</b></p>       | <p>農学専攻博士前期課程は、農学全般にわたる幅広い知識・技術を駆使して、作物または園芸作物の生産、育種、バイオテクノロジー、ポストハーベストおよび農作物にかかわる微生物や昆虫類に関する専門家の総合力を確立し、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 農学分野の各専門分野において、それぞれ理解すべき学識を得るための特論・特論実験科目を配当する。</p> <p>(2) 農学全般における専門的知識や理解をさらに進化させるための幅広い分野にわたる選択科目を配当する。</p> <p>(3) 研究者、教育者あるいは技術者として必要なプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を向上させるための選択科目を配当する。</p> <p>(4) 指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、実験技術の習得、文献検索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う特別実験・演習科目を必修科目として配当する。</p>   |
| <p><b>動物科学</b></p>     | <p>動物科学専攻博士前期課程は、動物生命・生産科学を基盤に最先端知識・技術を駆使して、動物科学関連領域にかかわる研究者や専門家としての総合力を確立し、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 生命・生産科学分野において、動物関連産業での諸問題を理解するための科目を配当する。</p> <p>(2) 生命・生産科学の諸問題に自ら取り組むため、関連情報の精査、検証方法や解析方法および得られた結果を公表する手法を修得するための科目を配当する。</p> <p>(3) 指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、諸問題の発見、研究計画の立案と実施、理論的・建設的な議論、効果的な公表などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う特別実験・演習科目を必修科目として配当する。</p>   |
| <p><b>バイオセラピー学</b></p> | <p>バイオセラピー学博士前期課程は、環境および福祉農学にかかわる学際的な教育を実践し、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 人間動物関係学、人間植物関係学および生物介在療法学の特論科目を配当する。</p> <p>(2) プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を向上させるための選択科目を配当する。</p> <p>(3) 指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、課題設定、研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、文献調査、考察に関する議論などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う特別実験・実習・演習科目を必修科目として配当する。</p> <p>(4) バイオセラピー専攻の3分野の詳細科目を配当する。</p>   |
| <p><b>農芸化学</b></p>     | <p>農芸化学専攻博士前期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、応用生物科学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」として、研究者・技術者等として必要な知的管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目」として、研究者・技術者等として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を身につける科目、生命倫理・研究倫理に対する理解力を高める科目及び農芸化学の研究の遂行に求められる専攻基礎科目を配当する。</p> <p>(3) 「専攻科目・特論科目」として、研究者や技術者等として必要な専門的知識・研究能力を修得させるため、講義または演習形式により、土壌肥科学、植物生産化学、応用微生物学、食料資源理化学、生物有機化学、及び栄養・生化学に関する科目を配当する。</p> <p>(4) 「研究科目」として、研究指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目、実験科目を必修科目として配当する。</p>   |
| <p><b>醸造学</b></p>      | <p>醸造学専攻博士前期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、応用生物科学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」として、研究者・技術者等として必要な知的管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目」として、研究者・技術者等として必要な、プレゼンテーション能力や技法を身につける科目、生命倫理・研究倫理に対する理解力を高める科目及び醸造学研究の遂行に求められる専攻基礎科目を配当する。</p> <p>(3) 「専攻科目・特論科目」として、研究者や技術者等として必要な専門的知識・研究能力を修得させるため、講義または演習形式により、醸造微生物学、微生物工学、酒類生産科学、発酵食品化学、調味食品科学及び醸造環境科学に関する科目を配当する。</p> <p>(4) 「研究科目」として、研究指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目、実験科目を必修科目として配当する。</p>   |
| <p><b>食品安全健康学</b></p>  | <p>食品安全健康学専攻博士前期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、応用生物科学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」として、研究者・技術者等として必要な知的管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目」として、研究者・技術者等として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を身につける科目、生命倫理・研究倫理に対する理解力を高める科目及び食品安全健康学研究の遂行に求められる専攻基礎科目を配当する。</p> <p>(3) 「専攻科目・特論科目」として、研究者や技術者等として必要な専門的知識・研究能力を修得させるため、講義または演習形式により、生体分析科学、リスク評価学、食品開発学、生理活性物質学、生理機能学及び生体環境解析学に関する科目を配当する。</p> <p>(4) 「研究科目」として、研究指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目、実験科目を必修科目として配当する。</p>   |
| <p><b>食品栄養学</b></p>    | <p>食品栄養学専攻博士前期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、応用生物科学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」として、研究者・技術者等として必要な知的管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目」として、研究者・技術者等として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を身につける科目、生命倫理・研究倫理に対する理解力を高める科目及び食品栄養学研究の遂行に求められる専攻基礎科目を配当する。</p> <p>(3) 「専攻科目・特論科目」として、研究者や技術者等として必要な専門的知識・研究能力を修得させるため、食品栄養学および人間栄養学に関する科目を配当する。また、専門性に応じた必要な専門的知識・研究能力を修得させるため、食品生化学、フードシステム管理学、調理科学、食品機能利用学、栄養生理学、保健栄養学、臨床栄養学及び栄養機能学に関する科目を配当する。</p> <p>(4) 「研究科目」として、研究指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目、実験科目を必修科目として配当する。</p> |

# 教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー) 博士前期課程・修士課程

## 【専攻 カリキュラムポリシー】

|                        |  |
|------------------------|--|
| <p><b>バイオサイエンス</b></p> | <p>バイオサイエンス専攻博士前期課程は、生命科学を基盤に最先端知識・技術を駆使して、生命科学にかかわる研究者など専門職者としての総合力を確立するため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」には、研究者など専門職者として必要な知的財産管理に関する科目と、修了後のキャリア・プランを構築させる科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目」には、研究者など専門職者として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を向上させる科目、生命倫理や研究倫理を理解する科目、及び生命科学における専門的知識や理解をさらに深化させるための基礎科目を配当する。</p> <p>(3)「専攻科目・特論科目」には、研究者など専門職者として必要な専門知識・研究能力を習得させるために、講義または演習形式による専門科目を配当する。</p> <p>(4)「研究科目」には、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う実験・演習科目を配当する。</p>   |
| <p><b>分子生命化学</b></p>   | <p>分子生命化学専攻修士課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、生命科学にかかわる研究者あるいは技術者としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」には、研究者など専門職者として必要な知的財産管理に関する科目と、修了後のキャリア・プランを構築させる科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目」として、研究者など専門職者として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を身につける科目、生命倫理・研究倫理に対する理解力を高める科目及び分子生命化学の研究の遂行に求められる専攻基礎科目を配当する。</p> <p>(3)「専攻科目・特論科目」として、研究者など専門職者として必要な専門的知識・研究能力を修得させるため、講義または演習形式により「分子設計学」、「有機合成化学」、「ケミカルバイオロジー」、「分析化学」、及び「生命高分子化学」に関する科目を配当する。</p> <p>(4)「研究科目」として、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う実験・演習を必修科目として配当する。</p> |
| <p><b>分子微生物学</b></p>   | <p>分子微生物学専攻修士課程は、生命科学を基盤に最先端知識・技術を駆使して、分子生物学にかかわる研究者など専門職者としての総合力を確立するため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」には、研究者など専門職者として必要な知的財産管理に関する科目と、修了後のキャリア・プランを構築させる科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目」には、研究者など専門職者として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を向上させる科目、生命倫理や研究倫理を理解する科目、及び生命科学分野における専門的知識や理解をさらに深化させるための基礎科目を配当する。</p> <p>(3)「専攻科目・特論科目」には、研究者など専門職者として必要な専門知識・研究能力を習得させるために、講義または演習形式による専門科目を配当する。</p> <p>(4)「研究科目」には、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う実験・演習科目を配当する。</p>  |
| <p><b>林学</b></p>       | <p>林学専攻博士前期課程では、森林環境保全学、森林資源生産学、森林資源利用学、森林文化情報学などの専門領域に関わる研究者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」として、知的財産管理に関する科目と、修了後のキャリア・プランを構築させる科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目」に、研究者・技術者等として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を身に付ける科目、研究倫理に対する理解力を高める科目及び、林学の研究推敲に求められる科目を配当する。</p> <p>(3)「専攻科目・特論科目」に、研究者・技術者等として必要な専門的知識・研究能力を修得させるため、講義により森林環境保全学分野、森林資源生産学分野、森林資源利用学分野、森林文化情報学分野の科目を配当する。</p> <p>(4)「研究科目」に、指導教員による密接な指導の下に、問題発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献検索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目、実験科目を配当する。</p>   |
| <p><b>農業工学</b></p>     | <p>農業工学専攻博士前期課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、農業工学に関わる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」として、知的財産管理に関する科目と、修了後のキャリア・プランを構築させる科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目」として、研究者・技術者等として必要な、プレゼンテーション能力やフィールド調査の技術を身につけ、研究倫理に対する理解力を高め、論文作成に必要な知識を修得するための科目及び各専門領域に関連する特講科目を配当する。</p> <p>(3)「専攻科目・特論科目」として、研究者や技術者等として必要な専門的知識・研究能力を修得させるため、講義または演習形式により、地域資源利用学、生産環境・計画学、施設工学及び農業生産システム工学に関する科目を配当する。</p> <p>(4)「研究科目」として、研究指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目、実験科目を配当する。</p>                  |
| <p><b>造園学</b></p>      | <p>造園学専攻博士前期課程は、造園計画・設計、造園植物・植栽、造園施設材料・施工の3つの柱に関する知識と技術を通じて、造園学にかかわる研究者・教育者、専門技術者としての総合的な能力を確立し、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」として、知的財産管理に関する科目と、修了後のキャリア・プランを構築させる科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目」として、研究者・技術者等として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を身につける科目、生命倫理・研究倫理に対する理解力を高める科目及び造園学の研究遂行に求められる専攻基礎科目を配当する。</p> <p>(3)「専攻科目・特論科目」として、研究者や技術者等として必要な専門的知識・研究能力を修得させるため、講義または演習形式により、造園計画・設計学、造園植物・植栽学、及び造園施設材料・施工学に関する科目を配当する。</p> <p>(4)「研究科目」として、研究指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目を必修科目として配当する。</p>        |
| <p><b>地域創成科学</b></p>   | <p>地域創成科学専攻修士課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、地域創成科学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」として、知的財産管理に関する科目と、修了後のキャリア・プランを構築させる科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目」として、研究者・技術者等として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を身につける科目、生命倫理・研究倫理に対する理解力を高める科目、地域創成科学に関する実験・調査計画法、フィールド調査及び環境教育法などを修得するための科目を配当する。</p> <p>(3)「専攻科目・特論科目」として、研究者や技術者等として必要な専門的知識・研究能力を修得させるため、講義または演習形式により、保全生態学、地域環境保全学、地域環境工学、及び地域デザイン学に関する科目を配当する。</p> <p>(4)「研究科目」として、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目、実験科目を配当する。</p>       |

# 教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー) 博士前期課程・修士課程

## 【専攻 カリキュラムポリシー】

|                          |  |
|--------------------------|--|
| <p><b>国際農業開発学</b></p>    | <p>国際農業開発学専攻博士前期課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、国際農業開発学専攻博士前期課程では、学問領域を統合する総合的アプローチと実践的で国際的な視野に立った教育を通じて、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」として、研究者等にとって必要な研究倫理や知的管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目」として、研究者等として必要なプレゼンテーション能力を身につける科目、議論の能力を高めるための基礎となる科目及び国際農業開発学の研究に求められる科目を配当する。</p> <p>(3)「専攻科目・特論科目」として、生物生産科学、国際農業開発学を基幹科目として修士論文作成のために必要な専門的知識・研究能力を修得することを目的として、特論科目を配当する。</p> <p>(4)「研究科目」として、指導教員による指導のもと、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案や調査、分析対象に関わる議論・考察、文献検索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目及び実験・実習科目を配当する。</p>   |
| <p><b>農業経済学</b></p>      | <p>農業経済学専攻博士前期課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、国際食料農業科学に関わる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」として、研究者等にとって必要な研究倫理や知的管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目」として、研究者等として必要なプレゼンテーション能力を身につける科目、議論の能力を高めるための基礎となる科目及び農業経済学の研究に求められる科目を配当する。</p> <p>(3)「専攻科目・特論科目」として、農業経済学、農政学、食料経済学を基幹科目として修士論文作成のために必要な専門的知識・研究能力を修得することを目的として、演習形式による科目を配当する。</p> <p>(4)「研究科目」として、指導教員による指導のもと、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案や調査、分析対象に関わる議論・考察、文献検索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目を配当する。</p>  |
| <p><b>国際アグリビジネス学</b></p> | <p>国際アグリビジネス学専攻博士前期課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、国際食料農業科学に関わる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」として、研究者・技術者等として必要な知的財産管理、研究倫理等に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目」として研究者・技術者として必要なプレゼンテーション能力や英語力を身につける科目、及び国際アグリビジネス学の研究遂行に求められる科目を配当する。</p> <p>(3)「専攻科目・特論科目」として研究者・技術者として必要な専門知識・研究能力を修得させるため、農業経営組織学、農業経営管理学、農業経営戦略に関する科目を配当する。</p> <p>(4)「研究科目」として、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、調査研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う科目を配当する。</p>   |
| <p><b>国際食農科学</b></p>     | <p>国際食農科学専攻修士課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、国際食料農業科学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門家としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」として、知的財産管理に関する科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目」として、自然科学と社会学の両領域の知識を身につけ、国際食農科学の研究遂行に求められる科目を配当する。</p> <p>(3)「専攻科目・特論科目」として、専門的知識・研究能力を習得させるため、講義形式による植物生産学、食環境科学、食農政策、食農教育に関する科目を配当する。</p> <p>(4)「研究科目」として、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う科目を配当する。</p>   |
| <p><b>生物生産学</b></p>      | <p>生物生産学専攻博士前期課程は、本学の教育理念である「実学主義」に基づき、学部において学んだ生物生産学の根幹となる植物生産と動物生産ならびに生態系保全をより深く探求する実践的な専門科目の体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> <p>(1)植物資源生産と動物資源生産にかかわる基礎的な学識を得るための特論科目を選択必修科目として配当する。</p> <p>(2)生物生産ならびに生態系保全にかかわる知識と理解を深化させるために、より高度で応用的かつ最新の科学的知見を得ることのできる選択科目を配当する。</p> <p>(3)研究者や教育者あるいは技術者などの専門性の高い職種や指導的立場に就いた際に求められる成果の発信に必要な論文作成に関する選択科目と、プレゼンテーション能力を向上させるための演習選択科目を配当する。また、指導教授または指導准教授の指導下において、自らの研究内容について学会発表や学会誌への論文執筆を目標としてその過程を通して学ぶ選択科目を配当する。</p> <p>(4)専攻する各専門分野における実験技術や調査方法の修得のための特論実験科目を配当する。</p> <p>(5)指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査研究の実施、得られた結果に対する議論と考察、文献探索などを実践し、その過程において修士論文の執筆と発表を行う特別総合実験を必修科目として配当する。</p> |
| <p><b>アクアバイオ学</b></p>    | <p>アクアバイオ学専攻博士前期課程は、学部において基礎的に学んだアグリ・フードシステムを、より深く探求する実践的な専門科目の体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> <p>(1)本専攻において共通して理解すべき生物学、増養殖学、資源学、環境学等に関する学識を得るための特論科目を配当する。</p> <p>(2)学生の研究テーマを進めるために必要な水産生物の生物学的特性、生態学的特性および環境学的特性に関する専門的知識や理解を深化させるための選択科目を配当する。</p> <p>(3)多様な水圏科学に関する専門性を活かした研究者、教育者あるいは専門家として必要な論文執筆、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を向上させるための選択科目を配当する。</p> <p>(4)専門的な研究を実施するための実験技術修得のための実験科目と、発表能力や問題発見能力および解決能力を増強するための演習科目を配当する。</p> <p>(5)指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などを実践して修士論文の執筆と発表を行う科目として特別総合実験・演習科目を配当する。</p>  |

## 教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)博士前期課程・修士課程

### 【専攻 カリキュラムポリシー】

|                     |   |
|---------------------|---|
| <p><b>食品香粧学</b></p> | <p>食品香粧学専攻博士前期課程は、食品・香粧品に関する高度な専門知識と技術の学びを基本とし、北海道の農水産資源を食品や香粧品として活用するための生物資源の機能性や品質管理、および応用にかかわる理論教育と実験を主体とした体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> <p>(1) 食品および香粧品に関する資源利用、バイオサイエンスについて理解すべき学識を得るため必修の特論科目を配当する。<br/> (2) 食品および香粧品に関する専門的知識の理解を深め、幅広い興味と知識を身につけさせるため選択の特論科目を配当する。<br/> (3) 研究者、教育者あるいは技術者として必要なプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を向上させるための表現技術や文献検索技術を学ぶ演習形式の選択科目を配当する。<br/> (4) 生物資源の利用と機能性、品質管理に関連したバイオサイエンス技術修得のための実験科目を配当する。<br/> (5) 指導教授または指導准教授による指導の下に、食品や香粧品の開発加工、機能性、安全性に関する研究課題の選定、研究計画の立案、実験、考察および文献探索を実践し、修士論文の執筆と発表を行うための科目として特別総合実験・演習科目を配当する。</p> |
| <p><b>産業経営学</b></p> | <p>産業経営学専攻博士前期課程は、生物産業学を基盤として地域生物産業ならびに関連産業・地域企業および地域社会の持続的発展に寄与する人材を養成するためのカリキュラムを構築し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> <p>(1) 地域生物産業ならびに関連産業・地域企業および地域社会の持続的発展を支える高度な経営学・経済学に関する理論ならびに実践的な分析手法を修得する産業経営経済学分野にかかわる特論・演習科目を配当する。<br/> (2) 地域生物産業ならびに関連産業・地域企業および地域社会の持続的発展を支える企業経営の理論と方法を修得する地域企業マネジメント分野にかかわる特論・演習科目を配当する。<br/> (3) 研究者、教育者として必要な口頭発表を行う能力と、多様な発信力やコミュニケーション能力を修得する学術論文作成法およびプレゼンテーション技術演習等を配当する。<br/> (4) 指導教授または指導准教授による指導の下に、研究課題の選定から研究計画の策定、実態調査など研究の実施、理論の考察と文献探索を実施して、修士論文の執筆と発表を行う科目として産業経営学特別総合演習を配当する。</p>  |

## 教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー) 博士後期課程

| 【大学院 カリキュラムポリシー】  |   |
|---|---|
| <p>東京農業大学大学院は、本学の教育の理念「実学主義」に基づく農学あるいは生物産業学の教育を根幹として、実践的かつ高度な専門知識・技術を修得し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> |   |
| <p><b>博士後期課程</b></p>  | <p>(1) 各専攻分野の論文作成等に必要な総合的な実験、実習、演習科目を設置し、論文作成等にかかわる研究指導体制を通じて、自立して独創的な研究を遂行できる能力を育成する。<br/>                     (3) 博士論文の作成においては、指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、卓越した専門性を学び、高度な研究者、教育者、あるいは専門家としての総合力を確立する。</p>   |
| 【研究科 カリキュラムポリシー】  |   |
| <p><b>農学研究科</b></p>   | <p>農学研究科博士後期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、農学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。<br/>                     (1) 研究を通しての教育を重視し、研究の全行程を通して専門分野への学識を深め、コミュニケーション能力を増強するための科目を配置する。<br/>                     (2) 問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた博士論文の執筆、提出および審査に合格するまでを指導教授または指導准教授が密接な指導を行う必修科目を配置する。</p>  |
| <p><b>応用生物科学研究科</b></p>   | <p>応用生物科学研究科博士後期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、応用生物科学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。<br/>                     (1) 「研究科共通科目」に、研究者・技術者等として必要な研究倫理及び知的財産管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。<br/>                     (2) 「専攻科目・基礎科目、特論科目」に、自立した研究者・技術者等として必要な高度な専門的知識・研究能力を養うための科目を配当及び、国際的に活躍しうる人材を育成するため、研究者・技術者等に必要な語学力、コミュニケーション能力、情報発信力等を増強する科目を配当する。<br/>                     (3) 「研究指導科目」に、指導教員による密接な指導の下、自ら主体的に研究を展開させる博士論文の作成を通じて、より難度の高い問題を解決し、さらなる課題を設定して課題解決に向けた成果を社会に還元し、当該分野の先導的な専門家として独立できる能力を修得させるための科目を配当する。</p>               |
| <p><b>生命科学研究所</b></p>   | <p>生命科学研究所博士後期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、生命科学にかかわる研究者、教育者など高度専門職者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。<br/>                     (1) 「研究科共通科目」に、研究者や教育者など高度専門職者として必要な研究倫理及び知的財産管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。<br/>                     (2) 「専攻科目・基礎科目、特論科目」に、自立した研究者や教育者など高度専門職者として必要な高度な専門的知識・研究能力を養うための科目を配当及び、国際的に活躍しうる人材を育成するため、研究者や教育者など高度専門職者に必要な語学力、コミュニケーション能力、情報発信力等を増強する科目を配当する。<br/>                     (3) 「研究指導科目」に、指導教員による密接な指導の下、自ら主体的に研究を展開させる博士論文の作成を通じて、より難度の高い問題を解決し、さらなる課題を設定して課題解決に向けた成果を社会に還元し、当該分野の先導的な専門家として独立できる能力を修得させるための科目を配当する。</p> |
| <p><b>地域環境科学研究科</b></p>   | <p>地域環境科学研究科博士後期課程は、地域問題、環境問題の具体的な解決に資する研究を行う能力と、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。<br/>                     (1) 「研究科共通科目」に、研究者・高度専門技術者として必要な研究倫理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。<br/>                     (2) 「専攻科目・基礎科目、特論科目」に、自立した研究者・高度専門技術者として必要な人材を育成するため、語学力、情報発信力等を増強する科目を配当する。<br/>                     (3) 「研究指導科目」に、指導教員による密接な指導の下、自ら主体的に研究を展開させる博士論文の作成を通じて、より難度の高い問題を解決し、さらなる課題を設定して課題解決に向けた成果を社会に還元し、当該分野の独立した研究者としての能力を修得させるための科目を配当する。</p>   |
| <p><b>国際食料農業科学研究科</b></p>   | <p>国際食料農業科学研究科博士後期課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、国際食料農業科学に関わる先導的な研究者・教育者あるいは専門家としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。<br/>                     (1) 「研究科共通科目」として、研究倫理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。<br/>                     (2) 「専攻科目・基礎科目、特論科目」として、高度な専門的知識・研究能力を養うための、各専攻分野に適した専門科目及び、研究者・技術者等に必要な語学力、コミュニケーション能力等を増強する科目を配当する。<br/>                     (3) 「研究指導科目」として、指導教員による密接な指導の下、自ら主体的に研究を展開させる博士論文の作成を通じて、より難度の高い問題を解決し、さらなる課題を設定して課題解決に向けた成果を社会に還元する能力を修得するための科目を配当する。</p>   |
| <p><b>生物産業学研究科</b></p>  | <p>生物産業学専攻博士後期課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、前期課程において学んだ生物産業学の根幹となる生産、加工、流通・ビジネスを各専攻分野においてより高度に探求する専門科目の体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。<br/>                     (1) 研究を通しての教育を重視し、研究の全行程を通して専門分野への学識を深め、コミュニケーション能力を増強するための特論科目を配当する。<br/>                     (2) 指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などを実践して博士論文を完成させるための科目として特別総合実験・演習科目を配当する。</p>  |

## 教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)博士後期課程

### 【専攻 カリキュラムポリシー】

|                        |   |
|------------------------|---|
| <p><b>農学</b></p>       | <p>農学専攻博士後期課程は、農学全般にわたる幅広い知識・技術を駆使して、作物または園芸作物の生産、育種、バイオテクノロジー、ポストハーベストおよび農作物に関わる微生物や昆虫類に関する専門家としての総合力を確立し、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 研究を通しての教育を重視し、研究の全行程を通して専門分野における最先端の知識と技術を修得し、コミュニケーション能力を増強するための科目を配置する。</p> <p>(2) 問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた博士論文の執筆、提出および審査に合格するまでを指導教授または指導准教授が密接な指導を行う特別研究科目を必修とする。</p>  |
| <p><b>動物科学</b></p>     | <p>動物科学専攻博士後期課程は、動物生命・生産科学を基盤に最先端知識・技術を駆使して、動物科学関連領域にかかわる研究者や専門家としての高度な総合力を確立し、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 生命・生産科学分野において、動物関連産業での諸問題を理解するための科目を配当する。</p> <p>(2) 生命・生産科学の諸問題に自ら取り組むため、関連情報の精査、検証方法や解析方法および得られた結果を国際的に公表する手法を修得するための科目を配当する。</p> <p>(3) 指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、諸問題の発見、研究計画の立案と実施、理論的・建設的な議論、国際的な公表などの実践を通じた博士論文の執筆と発表を行う特別実験・演習科目を必修科目として配当する。</p>  |
| <p><b>バイオセラピー学</b></p> | <p>バイオセラピー学専攻博士後期課程は、高度な知識と技術を駆使した教育を実践し、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、課題設定、研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、文献調査、考察に関する議論などの実践を通じた博士論文の執筆と発表を行う特別研究科目を配当する。</p> <p>(2) 研究者としての心構え、語学力、生命や研究費使用に対する確かな倫理観を教授する特別研究科目を配当する。</p>   |
| <p><b>農芸化学</b></p>     | <p>農芸化学専攻博士後期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、応用生物科学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」として、研究者・技術者等として必要な研究倫理及び知的財産管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目・特論科目」として、自立した研究者・技術者等として必要な高度な専門的知識・研究能力を養うため、土壌肥料学、植物生産化学、応用微生物学、食料資源理化学、生物有機化学、及び栄養・生化学に関する科目を配当し、また、研究者・技術者等に必要言語学、情報発信力等を増強する科目を配当する。</p> <p>(3) 「研究指導科目」として、研究指導教員による密接な指導の下、自ら主体的に研究を展開させる博士論文の作成を通じて、より難度の高い問題を解決し、さらなる課題を設定して課題解決に向けた成果を社会に還元し、当該分野の先導的な専門家として独立できる能力を修得させるための科目を配当する。</p>                                     |
| <p><b>醸造学</b></p>      | <p>醸造学専攻博士後期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、応用生物科学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」として、研究者・技術者等として必要な研究倫理及び知的財産管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目・特論科目」として、自立した研究者・技術者等として必要な高度な専門的知識・研究能力を養うための醸造微生物学、微生物工学、酒類生産科学、発酵食品化学、調味食品科学及び醸造環境科学に関する科目及び、研究者・技術者等に必要言語学、コミュニケーション能力等を増強する科目を配当する。</p> <p>(3) 「研究指導科目」として、研究指導教員による密接な指導の下、自ら主体的に研究を展開させる博士論文の作成を通じて、より難度の高い問題を解決し、さらなる課題を設定して課題解決に向けた成果を社会に還元し、当該分野の先導的な専門家として独立できる能力を修得させるための科目を配当する。</p>                                       |
| <p><b>食品安全健康学</b></p>  | <p>食品安全健康学専攻博士後期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、応用生物科学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」として、研究者・技術者等として必要な研究倫理及び知的財産管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目・特論科目」として、自立した研究者・技術者等として必要な高度な専門的知識・研究能力を養うための生体分析科学、リスク評価学、食品開発学、生理活性物質学、生理機能学及び生体環境解析学に関する科目を配当及び、研究者・技術者等に必要言語学、コミュニケーション能力等を増強する科目を配当する。</p> <p>(3) 「研究指導科目」として、研究指導教員による密接な指導の下、自ら主体的に研究を展開させる博士論文の作成を通じて、より難度の高い問題を解決し、さらなる課題を設定して課題解決に向けた成果を社会に還元し、当該分野の先導的な専門家として独立できる能力を修得させるための科目を配当する。</p>                               |
| <p><b>食品栄養学</b></p>    | <p>食品栄養学専攻博士後期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、応用生物科学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」として、研究者・技術者等として必要な研究倫理及び知的財産管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目・特論科目」として、自立した研究者・技術者等として必要な高度な専門的知識・研究能力を養うため食品生化学、フードシステム管理学、調理科学、栄養生理学、保健栄養学、臨床栄養学に関する科目を配当し、また、研究者・技術者等として必要な研究計画書等の作成能力をより一層高め、将来の研究プロジェクトの企画能力・マネジメント能力を涵養するための科目を配当する。</p> <p>(3) 「研究指導科目」として、研究指導教員による密接な指導の下、自ら主体的に研究を展開させる博士論文の作成を通じて、より難度の高い問題を解決し、さらなる課題を設定して課題解決に向けた成果を社会に還元し、当該分野の先導的な専門家として独立できる能力を修得させるための科目を配当する。</p> |

教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー) 博士後期課程

| 【専攻 カリキュラムポリシー】 |   |
|-----------------|---|
| バイオサイエンス        | <p>バイオサイエンス専攻博士後期課程は、生命科学を基盤に最先端知識・技術を駆使して、生命科学にかかわる研究者や教育者など高度専門職者としての総合力を確立するため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」に、研究者や教育者など高度専門職者として必要な知的財産管理及び生命倫理や研究倫理に関する科目と、修了後のキャリア・プランを構築させる科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目、特論科目」には、研究者、教育者など高度専門職者として必要な高度な専門知識・研究推進能力を養うための科目と、国際的に活躍しうる人材を育成するために必要な語学力、コミュニケーション能力、情報発信能力を習得するための科目を配当する。</p> <p>(3)「研究指導科目」には、研究課題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた博士論文の執筆、提出及び審査に合格するまでを指導教員が密接な指導を行う科目を配当する。</p>   |
| 林学              | <p>林学専攻博士後期課程では、本学の教育理念「実学主義」に基づき、森林学、林産学を基盤とする森林総合科学に関わる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)研究科共通科目に、研究者・高度専門技術者等として必要な生命倫理・研究倫理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目」に、研究者・高度専門技術者として必要な実験・調査計画に関する科目を配当する。</p> <p>(3)「専攻科目・特論科目」に、自立した研究者・高度専門技術者等として必要な高度な専門的知識・研究能力を養うための森林環境保全学分野、森林資源生産学分野、森林資源利用学分野、森林文化情報学分野の科目を配当する。</p> <p>(4)「研究指導科目」に、指導教員による密接な指導の下、自ら主体的に研究を進展させる博士論文の作成を通じて、より難度の高い問題を解決し、さらなる課題を設定して課題解決に向けた成果を社会に還元し、当該分野の独立した研究者としての能力を修得させるための科目を配当する。</p>                            |
| 農業工学            | <p>農業工学専攻博士後期課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、農業工学に関わる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」として、研究者・技術者等として必要な研究倫理に関する科目と社会人としての実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目」として、研究者・技術者等に必要英語論文を執筆するための能力を増強する科目を配当する。</p> <p>(3)「専攻科目・特論科目」として、自立した研究者・技術者等として必要な、高度な専門的知識・研究能力を養うための地域資源利用工学、農村環境工学、広域環境情報学、地水環境工学、社会基盤工学、水利施設工学、バイオロボティクス及び農産加工流通工学に関する科目を配当する。</p> <p>(4)「研究指導科目」として、研究指導教員による密接な指導の下、自ら主体的に研究を展開させる博士論文の作成を通じて、より難度の高い問題を解決し、さらなる課題を設定して課題解決に向けた成果を社会に還元し、当該分野の先導的な専門家として独立できる能力を修得させるための科目を配当する。</p> |
| 造園学             | <p>造園学専攻博士後期課程は、造園学にかかわる専門的学理、高度な知識と技術を駆使して、研究者・教育者、高度専門技術者として研究手法と応用能力・技術を発揮できる体系的な能力を確立し、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」として、研究者・技術者等として必要な研究倫理に関する科目と社会人としての実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目」として、研究者・技術者等に必要語学力を増強する科目を配当する。</p> <p>(3)「専攻科目・特論科目」として、自立した研究者・技術者等として必要な、高度な専門的知識・研究能力を養うための造園計画学、造園設計学、造園植物学、造園植栽学、造園施設材料学及び造園施工学に関する科目を配当する。</p> <p>(4)「研究指導科目」として、研究指導教員による密接な指導の下、自ら主体的に研究を展開させる博士論文の作成を通じて、より難度の高い問題を解決し、さらなる課題を設定して課題解決に向けた成果を社会に還元し、当該分野の先導的な専門家として独立できる能力を修得させるための科目を配当する。</p>                     |
| 国際農業開発学         | <p>国際農業開発学専攻博士後期課程では、本学の教育理念「実学主義」に基づき、広範な学問領域を統合する総合的アプローチと実践的で国際的な視野に立った教育を通じて、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」として、研究者等として必要な研究倫理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目、専攻科目・特論科目」として、高度な専門知識を踏まえて課題を設定し研究を企画遂行する能力、さらには、国内外の農業開発並びに国際協力分野でリーダーシップを持って活躍できる能力を養うための後期特論科目を配当する。</p> <p>(3)「研究指導科目」として、指導教員のもと、国際的研究動向を踏まえた高度な専門的研究を進め、農業開発やそれに関わる研究及び国際協力を行うための高度な専門知識、論理的思考力と実践力を養うための科目を配当する。</p>  |
| 農業経済学           | <p>農業経済学専攻博士後期課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、国際食料農業科学に関わる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」として、研究者等として必要な研究倫理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目、専攻科目・特論科目」として、農業経済学を中心とした社会科学の視点から問題発見を行い、自立した研究者等として必要な、高度な専門的知識・研究能力を養うための後期特論科目を配当する。</p> <p>(3)「研究指導科目」として、指導教員による指導の下、自ら主体的に研究を展開させる博士論文の作成を通じて、より難度の高い問題を解決し、さらなる課題を設定して課題解決に向けた成果を社会に還元し、当該分野の先導的な専門家として独立できる能力を修得するための科目を配当する。</p>   |
| 国際アグリビジネス学      | <p>国際アグリビジネス学専攻博士後期課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、国際食料農業科学に関わる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」として、研究者・技術者等として必要な研究倫理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目、専攻科目・特論科目」として、国内外で活躍できる言語能力を身につけるための英語科目を含む基礎科目を配当し、自立した研究者等として必要な、高度な専門的知識・研究能力を養うための特論科目を配当する。</p> <p>(3)「研究指導科目」として、指導教員による密接な指導の下に、自ら主体的に問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、調査研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた博士論文の執筆と学術研究発表を行える、自立した研究者となるための科目を配当する。</p>  |

## 教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)博士後期課程

### 【専攻 カリキュラムポリシー】

|              |  |
|--------------|--|
| <b>生物産業学</b> | <p>生物産業学専攻博士後期課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、前期課程において学んだ生物産業学の根幹となる生産、加工、流通・ビジネスを各専攻分野においてより高度に探求する専門科目の体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> <p>(1) 研究を通しての教育を重視し、研究の全行程を通して専門分野への学識を深め、コミュニケーション能力を増強するための特論科目を配当する。</p> <p>(2) 指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などを実践して博士論文を完成させるための科目として特別総合実験・演習科目を配当する。</p> |
|--------------|--|